

## 記入例

## ルーブリック 評価シート

## 工業技術基礎

実習テーマ	P L Cによるシーケンス制御				評価点 合計	18
クラス	M 1	出席番号	1	氏名	● ● ● ●	

評価規準	①		②		③		④		⑤		⑥	
	I 知識・技術		II 思考・判断・表現				III 主体的に学習に取り組む態度					
	基礎的・専門的な知識・技術		発想力・創造力		判断力		表現力		課題解決力		主体性・協働性	
Ⓐ	課題①～⑤まで、すべての課題において、適正に動作するシーケンス図を作成することができた。		課題①～⑤のうち、4つ以上の課題において、P L Cを用いてコーディングすることができた。		課題①～⑤まで、すべての課題において、ラダー図に必要な記号を判断して配置することができた。		課題①～⑤におけるP L Cの動作について、科学的な根拠に基づき結果を検証し、必要に応じて改善することができた。		⑥に加えて、課題に対して、試行錯誤を繰り返しながら取り組み、自ら解答を導こうとした。		⑥に加えて、作業内容やラダー図、コーディング表について、改善・工夫したところを振り返り、その理由を考察しようとした。	
Ⓑ	課題①～⑤のうち、3つ以上の課題において、適正に動作するシーケンス図を作成することができた。		課題①～⑤のうち、2つ以上の課題において、P L Cを用いてコーディングすることができた。		課題①～⑤まで、3つ以上の課題において、ラダー図に必要な記号を判断して配置することができた。		課題①～⑤におけるP L Cの動作について、結果を検証し、必要に応じて改善することができた。		書籍やインターネットなどを用いて、シーケンス制御の仕組みについて調べた情報をもとにして、課題を解答しようとした。		グループの中で自分の役割を見つけ、P L Cを用いた制御技術の習得に向け主体的かつ協働的に取り組もうとした。	
Ⓒ	⑥に至らなかったが、1つ以上の課題において、適正に動作するシーケンス図を作成することができた。		⑥に至らなかったが、サンプルプログラムを見ながら、P L Cを用いてコーディングすることができた。		⑥に至らなかったが、1つ以上の課題において、ラダー図に必要な図記号を判断して配置することができた。		⑥に至らなかったが、課題①～⑤におけるP L Cの動作について、結果を検証することができた。		⑥に至らなかったが、書籍やインターネットなどを用いて情報を調べようとした。		⑥には至らなかったが、指示をされたことに対して作業に取り組もうとした。	
評価	Ⓐ		Ⓑ		Ⓒ		Ⓐ		Ⓑ		Ⓒ	
評価点	5		3		1		5		3		1	
Ⓒに至らない生徒への対応	実演を行いながら、P L Cへの配線方法を指導する。その後、単独で配線作業を行わせ、シーケンス図を作成させる。		課題①～⑤まで、すべてのサンプルプログラムを見ながら、P L Cを用いてコーディングさせる。		ラダー図に用いる各記号の名称や機能、図記号を記述した用紙を提出させる。		P L Cのしくみを解説するとともに、ラダー図を基にして、接続している入力・出力機器の動作を確認させる。		得られた情報をもとにして、どのように考えて判断し、表現することで解答を導き出せるか解説する。		グループ内で役割分担させ、各自が取り組む作業内容を視覚化させる。	